

## Women Deliver 2023 に向けたメッセージ

### 背景

3年に1度開催され、ジェンダー平等や女の子と女性の権利について話し合う世界最大の国際会議「Women Deliver」が2023年に開催される。「Women Deliver 2023 (WD2023)」は、草の根活動家や、ユース、市民社会、政府、多国籍組織、民間セクターなど6000人が対面で、20万人以上がオンラインで参加した。性と生殖に関する健康と権利(SRHR)を中心に、WD2023は交差するフェミニズムの原則を中心に、女の子と女性に影響を与える複合的な問題に取り組み、エビデンスに基づく解決策を提示し、アクションを起こす場でもある。

今年のテーマである「空間、連帯、解決(Spaces, Solidarity and Solutions)」は、ジェンダー平等に関する持続可能な解決策を推進するために、世界が切実に必要としている包括的で共創的な空間を形成することに焦点を当てている。WD2023は、政策とプログラムを改善するためのフォーラムを提供し、ジェンダー平等とSRHRを促進する政治的・財政的コミットメントのための舞台を整える。

**WD2023の目的は以下の4つである。**

1. ジェンダー平等を推進するための集団的行動を喚起する
2. 指導者に責任ある行動を
3. フェミニスト運動に活力を
4. 誰がリーダーであるかを再定義し、誰にとってもアクセスしやすく、包括的な空間の創出を

新型コロナウイルス感染症のパンデミックで、何百万人もの女の子と若い女性の権利は深刻な影響を受けた。昨今の世界各地の厳しい政治環境と、時代に逆行する政策を掲げるポピュリスト的で保守的な勢力の台頭により、若い活動家、ジェンダーの権利やSRHRへのバッシングは悪化している。女の子と若い女性たちは、世界規模の食料危機や緊急の気候危機など、長期化する危機や紛争の矢面に立たされ続けており、国際社会がこれまで合意してきた地球規模課題への取り組みの進捗も大幅に遅れている。

WD2023は、各国政府やステークホルダー、パートナーにとって、「ジェンダー平等を推進し、交差するすべてのアイデンティティにおいて、女の子と女性のウェルビーイングを向上させるために必要な」解決策を特定し、集団行動を喚起するために結集することで、これらの課題を集団的に推進する機会を提供する。

## 国際 NGO プラン・インターナショナルの取り組み

プランでは、WD2023 を通じて、女の子の権利擁護活動をけん引するリーダーとして以下の目的に取り組む。

### プランの WD2023 への目的<sup>1</sup>

1. WD2023 のあらゆる機会を活用し、また WD のユース・エンゲージメント戦略(GGE Equal Power Now ユース・マニフェストのプロファイリングを含む)に沿って、ジェンダー平等を求める女の子とユースの声を擁護し、支援する。
2. プラン・インターナショナルの新しい世界戦略「Girls Standing Strong」を推進することで、プラン・インターナショナルを女の子の権利運動をリードする国際NGOとしての地位を維持する。
3. プラン・インターナショナルが活動するすべての国において、プラン・インターナショナルのスタッフが各国で設定している目標を前進させ、女の子の権利運動における主導的かつ最大の組織としてのブランドを構築する機会を確保する。

### プランのアドボカシー活動における優先順位:

WD2023の目標およびプランのエンゲージメント目標、GLAS<sup>2</sup>とGlobal Influencing Ambition (GIA)の優先事項に基づき、プランでは、団体として以下の3つの課題を優先課題として設定した。

- **女の子のリーダーシップ、資金調達および人材確保、説明責任**
- **危機における女の子の権利の実現-教育、保護、食料安全保障のために**

### <sup>1</sup> プラン・インターナショナルの WD2023 への参加における包括的な目標は以下のとおりである。

1. Women Deliver 2023のあらゆる側面を通じて、またWDのユース・エンゲージメント戦略に沿って、ジェンダー平等を求める若い活動家の声を支持し、支援する。
  - a. 多様な背景を持つ女の子/ユース女性の存在と声を優先する。
  - b. 関連イベントやスペースへのユース代表の参加を支援する。
  - c. 若い活動家/運動に「場所を与える」ことで、彼ら自身の重要なジェンダー正義の課題を推進する。
  - d. プランが支援または主導するすべての同時/サイドイベントにおいて、ユースの参画が不可欠な要素であることを確認する。
  - e. プラン全体のユースたちによって作られたGGE「Equal Power Now national」の国内およびglobal Youth Manifestosを紹介する
2. プランの新たなグローバル戦略「Girls Standing Strong」を推進することにより、女の子の権利運動をリードするINGOとしての位置づけを継続する
  - a. 私たちがすでに経験、勢い、知名度、信頼性を確立しているあらゆるレベル、世界的に特徴的なプログラミングや影響力の分野で、私たちの専門知識、知見、洞察を活用する。
  - b. 優先課題に関する同時開催セッションの設計を主導する。
  - c. 同時開催セッションやその他のサイドセッションに参加し、COやユースから直接、解決策や洞察、専門知識を得る。
  - d. 関連研究を紹介する。
  - e. 組織全体の同僚や現地の主要パートナーを物理的にも仮想的にも関与させ、女の子の権利のための拡大する運動における私たちの役割を強化する。
  - f. 思春期の女の子の権利目標を支援し、パートナーとともに関連する問題で勢いを加速する。
  - g. パートナーシップの機会を優先し、私たちの活動に対する新たな約束、行動、投資を確保するとともに、すでに交わされた約束に対する説明責任を政府に求める。
3. 参加スタッフが国レベルの目標に対する影響力を強化させる機会を確保し、私たちが活動するすべての国において、主導的かつ最大の女の子の権利団体としての私たちのブランドを構築する。
  - a. 全オフィスを横断して、既存の強固な関係を構築し、新たな関係を模索する。1. イベントの前・中・後に、全スタッフと私たちが関わる若いインフルエンサーが WD の取り組みに参加するよう促す、強固で組織全体の取り組みのプロセス。

<sup>2</sup> 2022 年、プランは新たな 5 年戦略「All Girls Standing Strong Creating Global Change」を打ち出し、それに続いて密接に連携した 5 年間の「Global Advocacy Strategy」(GLAS)を開始した。GLAS は、女の子とユース女性の主体性、そして彼女たち自身の権利のためのリーダーや担い手としての役割を認識する、戦略的かつ包摂的な提唱活動の手法を再確認する。これに対するプランの取り組みは、私たちの主要メッセージと、Women Deliver における女の子とユースの代表を支援するという私たちの実際的な取り組みの中に含まれている。プランの主要メッセージは、**激化し、長期化する危機、複雑な緊急事態、武力紛争、脆弱性と脅威が増大する状況において、子どもの権利を守り、女の子の平等を求めるといふ、プランの優先順位の高まりも反映している。**GLAS の中で、プランは、**女の子のリーダーシップ、SRHR、教育、危機における女の子、気候変動**について、独立した提唱活動目標と目的を特定した。2024 年 6 月までの GLAS における提唱活動の重点分野として、**女の子のリーダーシップ、説明責任と人材確保、危機下の女の子**は、同組織の「Global Influencing Ambition」でも優先事項として強調されている。

## ● 身体の自己決定権とSRHRに対する女の子の権利の実現

私たちは、これら 3 つの分野に焦点を当て、相互の本質的なつながりを認識し、根幹となるグローバルな目標と各国・地域の優先事項、そしてプランで展開するキャンペーンやユースによる提言活動を推進していく。

## トップライン・メッセージ

1. 「私たちは、女の子、女性、ユースの多様な可能性を信じる。私たちは、あらゆる意思決定の場に加わることを目指す。私たちは、より多くの女の子と若い女性が、**運動のリーダー、活動家、変革者、政治家として活躍することを望む。**（「Girls Get Equal Manifesto」の女の子による声明）。
2. **あらゆるレベルの意思決定者は、女の子とそのグループの有意義で安全な参加を制度化し、十分な資金と説明責任を備えた政策、戦略、枠組みを採用することを通じて、思春期の女の子に対する公約に対して説明責任を果たさなければならない**（Equal Power Now Report）。
3. **私たちは、すべての女の子とユースの権利が、危機の前、危機の最中、危機の後に守られなければならないと信じる。**そのために、政府、ドナー、その他の人道支援主体が、女の子と若い女性を中途退学、児童婚、早婚、強制結婚、意図しない妊娠、性的搾取、暴力、食料不安などのリスクの増大から守るための緊急行動をとることが必要だ。これには、危機への対応だけでなく、レジリエンス（回復力）と備えの行動も含まれる（Girls in Crisis Advocacy Framework）。
4. 「私たちは、危機の間、子どもやユースがさらなる危害、虐待、搾取のリスクにさらされていることを認識している。だからこそ、私たちはユースとして、**緊急事態における教育の障壁に対する認識を高めるために、協力し、声を貸し、解決策を提案したい。**私たちは、子どもやユースが教育を受けることができれば、彼らが受けたかもしれないトラウマ的な経験から解放されることを知っている。また、特に女の子や若い女性にとっては、緊急事態における生徒の命を救うことにもなる」。（緊急事態における教育のためのユース・グローバル・パネル）。
5. **私たちは、あらゆる多様性を持つ女の子とユースが、強制、暴力、差別、虐待から解放され、自由で十分な情報を得た上で自ら選択し、身体の自律性を行使し、性と生殖に関する健康と生活をコントロールする権利を有すると信じる**（SRHR ポジションペーパー）。

## 優先課題に対するメッセージ

### 女の子のリーダーシップ、資材調達および人材育成、説明責任

- あらゆる多様性を持つ女の子とユースは、自身の人生を熟知し、自身に影響を与える決定に参加する権利がある。彼らは、自身の生活に影響を与える政策、予算、プログラムに関する決定に有意義に関与し、耳を傾けられ、影響を与えることができなければならない。
- ジェンダー平等のためのいかなる行動も、影響を受ける人びとによって形作られ、共同創造され、パートナーシップのもとで実施されなければ、持続的な変化を生み出すことはできない。女の子のリーダーシップの促進、公式な機関内での場の開放、女の子とユースを中心とした行動への資金提供に重点を置き、必要な権力と資源を、特にユースに移動させる必要がある。
- 女の子は、見下され、話に耳を傾けてもらえず、取り組みを無視されるといった、自身の行く手を阻む障壁を過小評価してはいない。他方、彼女たちはまた、持続的な変化を生み出すためには、正式な参加形態で参加することが不可欠であることも認識している。
- プランは、女の子とユースを中心に据えるという独自の取り組みを行っている。私たちは、ユースを中心とした組織になることが、女の子の権利とジェンダー平等を推進するという私たちの野望を達成するための重要な道筋であると考えている。平等を達成するためには、社会全体にわたる統合的なアプロ

一チが必要であることは認識しているが、その中で私たちは、女の子とユースとともに立ち、パートナーとして支援することを意図的に選択している。

## 行動の呼びかけ

- 各国政府は、持続可能な開発目標(SDGs)、子どもの権利条約(CRC)、女子差別撤廃条約(CEDAW)、市民的及び政治的権利に関する国際規約(ICCPR)の下での国際的義務、ジェンダー平等を目指す全ての世代フォーラム(Generation Equality Forum/GEF)<sup>3</sup>と国際人口開発会議(ICPD)の枠組みを含む、世界的・地域的な権利枠組みの中で、女の子とユース女性、特に思春期の女の子に対する約束を果たさなければならない。これには、議題設定、意思決定、説明責任プロセスを含むこれらの枠組みの中で、制度化され、十分な資金が提供される、開かれた、安全で、抱擁的で、意味のある参加の保証が含まれる。
- 各国政府は、思春期の女の子とユースの幸福、開発、リーダーシップに向けた公約、権利義務、政策目標をどのように達成しているか、進捗状況を定期的に公表すべきである。また、関連する意思決定の場における女の子とユースのリーダーシップと参加をどのように促進したかを含め、女の子とユースのニーズと要求にどのように応えているかを追跡し、公表すべきである。どのような場合でも、女の子とユースのニーズ、優先事項、幸福、発達を満たすように設計された介入策について、女の子とユースがフィードバックを提供する場が設けられなければならない。
- 国および地方レベルでは、省庁や関連機関を含む政府は、公共政策、予算、法律の設計、実施、監視および評価に、女の子(特に思春期の女の子)とユースおよびそのネットワークを有意義に関与させ、女の子の参加の影響を含め、進捗状況を追跡するための強力な説明責任メカニズムを設置すべきである。
- 政府は、全国ユース協議会、ユース議会、その他の関連する機構を含む正式な参加様式を、ジェンダー・トランスフォーメティブで、そのリーダーシップがあらゆる多様性を持つ女の子とユースを代表するものとなるよう改革し、資金を提供すること。これらの機構は、大人が支配する統治機構に働きかけ、影響を与えるための明確な手段を持たなければならない。女の子が主導し、女の子に奉仕する組織を含む地域のネットワークと結びついた、強力な保護メカニズムが必要である。
- 国連機関、ドナー、そして政府は、女の子やすべてのユースの集団行動と組織化を支援し、彼らの政治的効力と危機や外的脅威に直面した時の回復力を育むために、(財政的、非資金的な)アクセス可能な資源、能力強化、そして安全な空間を提供することによって、市民社会の担い手としての彼らの重要かつ明確な役割を認識し、強化しなければならない。ドナーは、より柔軟で、長期的で、ユースにやさしく、支援する活動家、運動、組織の能力強化に重点を置いた資金提供を行うべきである。
- 国連機関、ドナー、政府は、女の子とユース女性の政治的エンパワーメントと参加を優先するよう、ユース戦略と政策を導入または改訂し、資金を提供すること。ユース戦略は、ドナーの政策や資金調達の優先順位に影響を与えるために、女の子とユースをどのように直接巻き込んでいるかを示すべきである。ユース戦略は、効果的な実施、監視、評価を促進するために、必要な資源と制度的メカニズムで支援されるべきである。
- 政府と人道支援コミュニティは、人道的活動のあらゆる段階において女の子が組織的かつ有意義に参加できるよう、人道的環境において女の子が直面する参加への障壁を取り除かなければならない。女の子は人道的危機の中で特有のリスクに直面するが、そのニーズが優先されないことが多い。世界的な飢餓危機が深刻化する中、各国政府と国連は、準備と対応に女の子とユース女性を参加させ、彼女たちに影響を与える決定への参加を確保する義務がある。

<sup>3</sup> UNWOMEN が主導する、年齢や国籍、ジェンダーに関わらず、世代を超えて全ての人々が手を取りあい、あらゆる方面で平等な社会を実現していくことを目的とするキャンペーン。<https://bit.ly/3NTFxfq>

## WACA (西・中央アフリカ)での具体的な行動への呼びかけ

- 明確で意味のある職務権限と適切な資源を備えた、女の子の参加を制度化する正式な構造。
- あらゆる多様性を持つ思春期の女の子が、リーダーシップ、参加、社会的革新、説明責任を発揮できるよう、エンパワーメントされ、主体性、スキル、ツールを持つようになる。
- 政府は、発言し、主導し、活動に参加することを選んだ女の子やユース女性が直面する脆弱性とリスクを認識し、軽減する。

## 危機下の女の子の権利 - 教育、保護、食料安全保障<sup>4</sup>

- 人道/紛争/気候危機の中で生きる女の子の権利侵害のリスクが高まる一方で、必須とされるサービスへのアクセスが減少している。女の子の早すぎる強制された結婚(CEFMU)、意図しない妊娠、中途退学、児童労働、性的搾取、虐待のリスクが高まり、気候変動リスク、紛争、飢饉、飢餓に直面している国々では、女の子は食べる量も少なく、最後にありつくことが多い。
- 世界が直面している壊滅的な食料危機は、女の子に不均衡な影響を及ぼしている。女の子は消費量が少なく、栄養価の最も低い食品を食べるため、妊娠中の思春期の女の子やユース女性にとって、流産や妊産婦死亡のリスクが高まり、世代間の栄養不良の影響を引き継ぐことになる。女の子がジェンダーに基づく暴力(GBV)を受けるリスクが高まり、男の子よりも中途退学させられる可能性も高く、学校に通い続ける女の子にとっても、飢餓は学習に深刻な影響を与える。
- 緊急事態における教育は、女の子が教育を受ける権利を継続的に行使できるようにするだけでなく、回復力を強化し、暴力のリスクや、CEFMU のリスクを減らすことができる。緊急事態では、抱摂的で質の高い、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育が命を救うことができるのだが、その資源は大幅に不足している。
- 武力紛争は、学校の閉鎖、学校施設の破壊、生徒や教師の拉致や殺害を引き起こす。教育に対する攻撃や脅威は、生徒や教育関係者に直接的・長期的な悪影響を及ぼす。彼らは心理的外傷、健康上の合併症、不安にさらされ、勉強や指導を続ける能力に支障をきたす。

## 行動の呼びかけ

- 人道部門と開発部門、そして教育、栄養、保健、保護対応にまたがる統合された複合部門プログラミングは、危機の最中に女の子の権利を確保するために不可欠である。政府、ドナー、人道支援機関は、教育、CEFMU、食料不安、意図しない早期妊娠、その他 GBV や搾取の本質的なつながりを認識しなければならない。
- 飢餓がもたらすジェンダー化した影響に対処するため、ジェンダーと年齢に配慮した対応を優先する。これには、食料不安の中で子どもの保護、GBV、女の子の教育へのアクセス、CEFMU、性的虐待や搾取に対処する具体的なプログラムへの資金提供を含む。また、食料安全保障のデータを性、年齢、障害別に細分化する取り組みを強化するための支援も含まれる。
- 省庁や関連機関を含む政府は、継続的で抱摂的な質の高い学習を確保するために、危機の影響を受けている国において、学校に通っていない子ども、思春期の若者、ユースのための教育を含む、無償で質の高い、抱摂的で柔軟な学習機会への資金を増額することを通じて、女の子の教育への障壁を取り除かなければならない。政府は、厳しい人道的状況の中でより多くの女の子に手を差し伸べるために、緊急事態における女の子に手を差し伸べる機敏で革新的な方法に投資しなければならない。
- 政府、ドナー、危機的状況にある国は、女の子のニーズを優先し、ジェンダー平等を教育部門計画、緊急対応計画、予算、政策の中心に据え、特に危機的状況において、教育において、また教育を通じて、しばしば永続する有害なジェンダー規範、固定観念、慣行を変革するために、ジェンダー格差とその根底にある要因を幼少期から特定し、対処するようにしなければならない。

<sup>4</sup> See Plan International's latest report *Beyond Hunger: The Gendered Impacts of the Global Hunger Crisis* (2023)

- 現在の世界的な飢餓危機と気候危機、そしてそれらが女の子とその教育に不平等かつ壊滅的な影響を及ぼしていることを認識し、現金給付や学校給食のような、危機の中で最も弱い立場にある女の子のアクセス、学習継続、学習成果を高めることが証明されている社会的セーフティネットに向けて、持続可能な投資を行わなければならない。
- 国連機関および各国政府は、学校を標的として攻撃し、生徒や教員を殺傷し、女の子を誘拐するすべての者に対して説明責任を要求し、追求しなければならない。そしてすべての紛争当事者が国際法上の義務を履行することを確保する。各国政府は、紛争時に教育を守るため、「安全な学校宣言」と「子どもと武力紛争に関する国連安全保障理事会決議」を支持し、実施しなければならない。
- 政府は、特に最も社会から疎外された人々のために、危機や混乱時にも継続的なアクセスを確保するため、教育システムの回復力強化に投資しなければならない。これには、気候変動への適応能力を向上させるために、教育政策の中で包括的学校安全枠組みを実施することが含まれる。

#### MEESA(中東、東部および南部アフリカ)特有の行動の呼びかけ

- 急性食料不安の下で、子ども、思春期の若者、ユースが、人道的プログラミングの設計において、確実に話し合われ、関与されるようにする。子どもと思春期の若者には、情報を受け取り、フィードバックを提供し、人道的プログラミングに有意義に参加するための、抱擁的で安全かつ秘密厳守の方法が提供されなければならない。
- 可能な限り地元主導の対応を支援すること。ユース女性主導の組織を含む地元の組織には、直接的で柔軟な増額された資金援助と、対応に関する意思決定において中心的な役割を持つことが必要である。

#### WACA 特有の行動への呼びかけ

- 人道支援者およびその他の関係者、機関、制度は、あらゆる人道的準備、対応、復興努力において、年齢やジェンダーに関連した明確なニーズを認識し、統合し、女の子とユース女性の権利を守る。
- 政府、ドナー、その他の人道支援主体は、女の子とユース女性に対して説明責任を果たし、彼女たちが危機と人道支援活動のあらゆる段階に有意義に参加する中で、彼女たちの優先事項に耳を傾け、それに応えなければならない。
- 思春期の女の子、ユース女性、ユースは、ジェンダー・トランスフォーマティブ気候教育計画の強化におけるユースの戦略的役割を含め、気候変動関連政策、気候回復力、適応プログラムに関する意思決定の場に積極的に参加しなければならない。

## 性と生殖に関する健康と権利(SRHR)

- 身体の自律はジェンダー平等の前提条件である。すべての女の子とユース女性が、SRHR を十分に享受できるようにならない限り、私たちは国連の SDGs を達成することはできない。私たちは、女の子と女性の権利を後退させようとする者たちに対して断固とした態度で団結し、女性の性を支配しようとする家父長制に異議を唱える必要がある。
- 私たちは、危機的な状況を含め、学校内外で、すべての子どもに包括的性教育(CSE)を保障する必要がある。CSE は、人の性と生殖に関する生活について、自由で十分な情報に基づいた決定をするための技能と知識を身につけるために不可欠である。
- すべてのユース(特に思春期の女の子)は、避妊、安全かつ合法的な中絶、生理健康と衛生サービスへのアクセスを含め、彼らのニーズを満たすように設計された性と生殖に関する保健サービスを利用する権利を有する。普遍的な健康保険の中核的要素として、年齢とジェンダーに対応した SRHR サービスが求められている。
- 危機時における SRHR は命を救う介入であるため、より優先順位を高め、投資する必要がある。

#### 行動の呼びかけ

- 保健省および関係する提供者を含む政府は、人道的危機や紛争の最中も含め、すべての思春期の若者とユースが、年齢とジェンダーに対応し、権利に基づき、利用可能でアクセスしやすい、性と生殖に関する保

健サービス(避妊と安全な妊娠中絶を含む)への継続的なアクセスを確保しなければならない。これらのサービスは、**普遍的な健康保険の中核的なパッケージの不可欠な一部であるべきであり、子どもとユース、特に思春期の女の子のニーズを満たすサービスを提供するために、十分な訓練を受け、支援を受けている保健医療従事者がいなければならない。**

- 教育省を含む政府は、すべての子ども、思春期の若者、ユース(LGBTIQ+のユース、既婚者、障害者を含む)に対して、就学中、就学外、危機的状況にあるときを問わず、**適切な資金を確保し、年齢とジェンダーに対応した CSE への普遍的なアクセスを提供しなければならない。**CSE は、**非差別的で、抱擁的で、科学的に正確で、権利に基づき、ジェンダー・トランスフォーマティブな方法で実施されるべきである。**
- 政府、人道支援団体、ドナーは、SRHR 提供のための資金を増やし、最低限の基礎サービス・パッケージを完全かつ迅速に実施、そして危機的状況における思春期の女の子の SRHR のニーズを優先し、投資を行うべきである。
- **生理の健康と衛生を、教育や WASH 部門に加えて、SRHR や身体的自律性のプロセスの中にもっと統合しなければならない。**生理にまつわる不公平なジェンダー規範、烙印、差別に取り組むため、より大きな集団行動が必要である。
- 政府、サービス提供者、ドナー、人道支援者はまた、**思春期の若者とユースが、彼らのニーズを満たそうとする SRHR 政策とプログラムの開発、実施、監視、評価に有意義に関与できるようにすべきである。**
- 市民社会と SRHR サービス提供者は、**家族、コミュニティ、親、教師、宗教指導者と協力し、積極的な対話を促進し、家父長制的な女性の性のコントロールの必要性など、有害なジェンダー規範や固定観念に異議を唱えなければならない。**

#### WACA 特有の行動の呼びかけ

- 女性差別撤廃委員会の共同一般勧告第 31 号および子どもの権利委員会の一般意見第 18 号(2019 年)、有害な慣行に関する子どもの権利と福祉に関するアフリカ憲章第 21 条に沿ったものである。プランは、すべての国が**結婚の最低年齢を 18 歳に定め、当事者双方の自由で十分な情報に基づく同意を必要としない**と考える。これは、女の子と男の子の両方に適用されるべきであり、親、配偶者、または司法の同意を必要とするものを含め、いかなる例外もあってはならない。各国はまた、この趣旨の国内法が、慣習法、宗教法、伝統法の下で矛盾する規定よりも優先されるようにすべきである。
- 国家政府、国連機関、その他の利害関係者は、**思春期の女の子とユースが、国、地域、世界レベルのあらゆるプラットフォームや意思決定の場で、積極的かつ有意義に関与し、発言を聞いてもらい、公約の履行を監視するようにしなければならない。**
- 国内法には、司法・警察部門、教育、保健専門家、子どもの保護関係者、草の根の女性団体を含む、地域やコミュニティ・レベルでの多部門による効果的な実施のための規範変更を含む**行動変容プログラムのための資源と戦略が含まれていなければならない。**国内法の焦点は、コミュニティの取り組みを支援し、慣習の廃止に着手することであり、実践しているコミュニティへのアプローチにおいて、懲罰的であったり、烙印を押しするようなものであってはならない。
- **宗教とコミュニティの指導者は、女性器切除(FGM)を宗教と結びつける神話や、FGM の根底にある有害なジェンダー規範を公然と払拭すべきである。**また、地域や国の提唱活動や、関連する場合は宗教的勅令や宗教的戒律の発布を通じて、コミュニティが FGM を廃止するよう支援すべきである。

## 優先課題の世界的背景

### 女の子のリーダーシップ、資金調達および人材育成、説明責任

私たちは、ジェンダー平等への道のりで重要な岐路に立っている。今年は、SDGs 達成期限の折り返しの年であり、400 億ドルの誓約を掲げ、ジェンダー平等の不可逆的な進展に向けた投資と行動を加速させる世界的計画である GEF の 5 か年計画の中間点でもある。しかし、世界は停滞している。3 億 8,000 万人超の女の子と女性が、1 日 1.90 ドル未満で暮らす極度の貧困状態にある<sup>5</sup>。場合によっては、後退傾向にある。COVID-19 のパンデミック、脆弱性と人道危機の増大、反権利・反ジェンダー運動の台頭はすべて進展を妨げているが、私たちのこれまで試みがうまくいっていないことは、明白である。ODAを通じたジェンダー平等案件に拠出する上位 10 ドナーによる、思春期の女の子への投資状況は、2020 年には、総額 76 億ドルのうち、ジェンダーおよび思春期の若者を対象としたものは、5.56%にすぎなかった<sup>6</sup>。開発途上国<sup>7</sup>の思春期の若者(10~19 歳)およびユース(15~24 歳)の人口は 18 億人であり、これ思春期の若者<sup>8</sup>1 人当たり 4.70 ドルの投資に相当する。2030 年までに実質的かつ不可逆的な進歩を達成したいのであれば、従来通りの取り組みでは十分ではない。

世界全体で、そしてプランとしても、アプローチを再考する必要がある。誰が主導するかを見直す。一般的には、管理職/監督職の約 3 人に 1 人が女性であり、ジェンダー平等を達成するには 140 年かかるとされ、司法職については女性が占める割合はわずか 42%である<sup>9</sup>。私たちは政府に説明責任を果たさせ、公約を実際の行動に移させる必要がある。また、重要なことは、公衆の中で具体的な解決策に取り組んでいる人びとの有効性、リーチ、ネットワークを強化するために、権力と必要な資源を移動させることだ。

プランにとって、それは女の子や、コミュニティや、それ以外の場所で変化を生み出しているすべてのユースとともに立ち、彼らを支援することを意味する。世界には 10~24 歳までのユースが 18 億人おり、その大半(90%)は発展途上国に住んでいる<sup>10</sup>。世界中のユースが組織化し、運動を作り上げている。彼らはすでに開発や人道活動の最前線に立っている。彼らは、大人が主導する組織や大規模な組織では不可能な方法で、コミュニティのために、またコミュニティとともに、重要なサービスを提供し、変革の原動力となっている。

しかし 2021 年には、新たな資金拠出が約束されたにもかかわらず、女性の権利組織は ODA 総額の 0.13%、ジェンダー関連援助<sup>11</sup>全体の 0.4%しか受け取っていないと推定されている。多国間または二国間機関や政府から、ユースの運動に利用できる資金提供がないことは注目に値する<sup>12</sup>。GEF 期間中、私たちは、今後 5 年間でジェンダー平等を支援するために総額約 400 億ドルの資金提供がなされ、「フェミニスト運動とリーダーシップに関する行動連合」のもと、若いフェミニストのリーダーシップを支援するための行動が実施されるのを目の当たりにした。これらの取り組みは、正しい方向への素晴らしい第一歩だが、始まりに過ぎない。ユースグループやユースの活動家が新たな権利問題に迅速に対応するにつれ、彼らの課題は必要に応じて進化していく。そのため、柔軟な資金調達とドナーからの迅速な反応が必要である。ユースグループや団体は、彼らが定義したニーズに基づく技術的設備や組織強化のための柔軟な資金も必要としている。プロジェクト管理、財務管理、一般的な能力に関する訓練は、ユース活動家が支援すべき重要な分野であると認識されている。ユースは、自身の幸福、開発、未来に関するすべての会話において、意思決定のテーブルにつく必要がある。ドナーや政府の資金援助や政策の優先順位の設定から、プログラムによる介入策の設計や監視に至るまで、女の子とユースが中心になる必要がある。女の子とユース

<sup>5</sup> Progress on the Sustainable Development Goals: The Gender Snapshot 2022 [Progress on the Sustainable Development Goals: The gender snapshot 2022 | Publications | UN Women – Headquarters](#)

<sup>6</sup> ジェンダーと思春期: Global Evidence (GAGE)プログラムは、2016 年から 2020 年までの世界レベルでのジェンダー平等の上位 10 ドナーによる思春期の女の子への投資をマッピングした。ODI、AGIP、プラン・インターナショナルの支援による報告書全文は、Devonald, M., Guglielmi, S. and Jones, N. (2023) を参照のこと。Investing in adolescent girls: mapping global and national funding patterns from 2016 - 2020. Report. London: Gender and Adolescence: Global Evidence January 2023. [Investing-in-Adolescent-Girls-1.pdf \(odi.org\)](#)

<sup>7</sup> United Nations 2022 Youth and the SDGs [www.un.org/sustainabledevelopment/youth](#)

<sup>8</sup> See the report supported by ODI, AGIP and Plan International [Investing-in-Adolescent-Girls-1.pdf \(odi.org\)](#)

<sup>9</sup> Ibid.

<sup>10</sup> United Nations 2022 Youth and the SDGs [www.un.org/sustainabledevelopment/youth](#)

<sup>11</sup> AWID: [Where is the Money for Feminist Organizing](#) brief (May 2021)

<sup>12</sup> FRIDA. "No Straight Lines: Transformations with Young Feminist Organisers". 2020. Available at: <https://nostraightlines.youngfeministfund.org/>

スを中心に据えてこそ、決定や議題が彼らの現実を反映し、彼らが直面する問題に対処し、彼らがすでに取っている行動を高めることができるのだ。

特に女の子は、意見表明をしようとすると複数の困難に遭遇する。固定観念、限られた活動スペース、ハラスメントの脅威、ミスインフォメーション（誤った情報）、意思決定者に対する信頼の欠如などは、女の子が主導権を握る上で障害となる。プランの調査<sup>13</sup>に参加した94%の女の子は、自身の行く手を阻む障壁を認識している。彼女たちは見下され、耳を傾けられることはほとんどないが、持続的な変化を生み出すためには、正式な参加形態に関与することも不可欠であることも認識しており、活動家の3分の1超が、持続的な政治的変化をもたらすためには国家と直接関わるのが重要だと感じている。

あらゆる多様性を持つ女の子とユースとともに立つということは、ジェンダー正義運動に参加し、自らの未来を切り拓き、安全で抱摂的な意思決定の場への平等なアクセスを求める何千人もの人びとを支援するため、より多くの場と機会を開くことを目的とし、私たちの影響力を行使することを意味する。女の子とユース女性の状況と幸福を改善するために考案されたあらゆる介入策は、彼女たちのリーダーシップを促進するためにも使われるべきである。個人として、またユース主導の市民社会組織のメンバーとして女の子を関与させることで、実施者は草の根の知識を取り入れ、公衆の中の現実を反映した解決策を共同創造することができる。

この中間地点で、何か違うことを試みる時だ。誰が主導権を握るかを再考し、有意義な関与の場を開き、ジェンダー平等のために動員されている何百万人ものユースへの支援を強化する時だ。

更なる読み物は以下の通り: Plan International, 'Equal Power Now: Girls, Young Women and Political Participation', 2022. AGIP/GAGE 'Investing in Adolescent girls: mapping global and national funding patterns from 2016-2020' (2023), Plan International UK & The Feminist Circle 'Young Feminists Blooming' (2022)。

## 危機下の女の子の権利 - 教育、保護、食料安全保障

COVID-19 パンデミック、新しく進行中の紛争、気候変動など、激化する危機と脅威は世界中に大きな影響を与え、女の子とユースの権利を推進するための状況を根本的に変えている。ウクライナでの戦争、人道支援を必要とする人の増加、壊滅的な飢餓危機、そして前例のない世界的規模の避難民は、すでに逼迫している資金調達の状況や政治的意思を圧迫している。生活費の高騰と食料不安の深刻化は、何百万もの家族を貧困と不平等の悪循環に陥れている。気候危機がそれ強化し、生態学的、社会的、経済的に世界を崩壊に近づけているという明確な証拠があるにもかかわらず、世界的な対策が不十分なままである。

こうした危機のすべてにおいて、女の子が直面するさまざまなリスクは高まり、教育、保護、食料安全保障を受ける権利を狭めている。

壊滅的かつ深刻化する飢餓危機の中で、現在82カ国で少なくとも3億4500万人が急性食料不安に陥っているか、その危険にさらされており、4900万人が飢餓の危機に瀕している<sup>14</sup>。入手可能なデータによると、2021年には、男性よりも女性の方が1億2630万人多く食料不安に陥っており<sup>15</sup>、この格差は拡大しつつある。しかし、世界的なデータセットは、成人と思春期後期の若者における性差を明らかにするのみである。子どもたちを含めると、食料不安に苛まれる女の子と女性は、男の子や男性に比べて世界で1億5000万人も多くなる<sup>16</sup>と推定されているが、これは推定であり、15歳未満に関する世界的な性差別食料安全保障データはない。

食料不安の影響は、栄養不足という直接的な結果にとどまらない。(多くの場合、女の子や女性に対して発生する) 親密なパートナーからの暴力や育児放棄、子どもに対する暴力のリスクが高まる。思春期の女の子にとって、食料不安はしばしば、CEFMUのリスクと、それに伴う意図しない妊娠やその他のSRHRに関する懸念のリスクの増大

<sup>13</sup> Plan International 2022 [REPORT: Equal Power Now: Girls, Young Women & Political Participation \(planinternational.be\)](https://www.planinternational.be/reports/equal-power-now)

<sup>14</sup> WFP, 'A Global Food Crisis'. 2022: <https://www.wfp.org/global-hunger-crisis>

<sup>15</sup> Applies to moderate and acute food insecurity amongst the over 15 population only. Care. 2022, based on data in FAO, 'The State of Food Security and Nutrition in the World', 2022.

<sup>16</sup> Care, 'Food Security and Gender Equality: A synergistic understudied symphony', 2022.

を意味する。急性食料不安の状況では、教育が早期に犠牲となる可能性があり、思春期の女の子にとって、食料不安は、教育を受ける上ですでに直面している障壁を更に厚くさせる可能性がある。

新たな世界的推計によると、2億2200万人の危機の影響を受けた子どもや思春期の若者が、緊急の教育支援を必要としている<sup>17</sup>が、緊急事態や長期化する危機における教育的対応は、深刻な資金不足のままであり、そのニーズは高まっている。これは、危機的状況下において、抱摂的で質の高い、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育が女の子の権利を守り、主体性を育み、認識され、耳を傾けられることを可能にするという証拠にもかかわらずである。抱摂的で質の高い、ジェンダー・トランスフォーマティブ教育を受ける権利は、緊急時に失うものではない、救命にも生命維持にもつながるのだ。

思春期の女の子、特に難民、国内避難民、庇護申請者の女の子にとって、紛争や危機は、初等・中等教育へのアクセスにおいてすでに直面している障壁を更に厚くし、既存のジェンダー差別や、生涯にわたって影響を及ぼす、早すぎる結婚や早期妊娠のような有害な慣行を悪化させる。危機の影響を受けている国が、統合的な準備と早期行動計画を共同開発し、実施することを支援し、その国の改訂された包括的学校安全枠組みを支持することを通じて、教育は、人道的な回復力、予測、早期対応の重要な要素となりうる。女の子、ユース、そして彼らのネットワークは、すでに世界各地で、緊急事態における教育を提供し、守るための取り組みを主導しており、解決策の策定と実施に彼らが関与することは、成功のために極めて重要である。

更なる読み物は以下の通り: Plan International, 'Beyond Hunger: The Gendered Impact of the Global Hunger Crisis', 2023.

## 性と生殖に関する健康と権利 (SRHR)

思春期の女の子は、根強いジェンダー不平等と年齢差別のために、SRHR 侵害の影響を不平等に受けやすく、脆弱である。これは、多くの社会で女の子の価値が低いために、しばしば深刻化する。妊娠・出産による合併症は、世界的に 15~19 歳の女の子の主な死因である<sup>18</sup>。低資源国では、毎年およそ 1200 万人の 15~19 歳の女の子が出産しており、この年齢層では毎年少なくとも 1000 万人が望まない妊娠をしている。15 歳未満の女の子では、死亡のリスクはさらに高い<sup>19</sup>。世界全体では、12 億人以上の生殖年齢にある女の子と女性(15~49 歳)が、安全な中絶に何らかの制限がある国に住んでおり、1 億 200 万人が、中絶が完全に禁止されている国に住んでいる<sup>20</sup>。

思春期の女の子は、性と生殖に関する健康に関して自ら決定する発言力、主体性、自律性を欠くことが多く、質の高い性と生殖に関する健康に関する情報やサービスへのアクセスを拒否されることも多い。そのため、望まない妊娠や性感染症(HIV を含む)、妊娠・出産に関連する合併症から身を守ることができず、脆弱な状態に置かれることがある。思春期の女の子はまた、性暴力や、FGM、CEFMU などの有害な慣行にも頻繁にさらされている。

有害な社会規範、ジェンダー固定観念、男女間の力の不均衡、思春期の女の子の性に対する認識、その他の不平等は、思春期の女の子の SRHR へのアクセスを制限する重大な障壁である。彼女たちの身体、性、関係性についての情報や、彼女たちのニーズを満たす SRHR サービスの欠如は、彼女たちが直面する差別を更に悪化させる。

女の子たちはしばしば、強制、屈従、暴力、差別から解放され、健康的で安全で楽しい性を行使できるよう、十分な情報を得た上で意思決定するための自律性や知識を否定されていることに気づく。これは特に、貧困や、危機的・緊急的状況下にいる、あるいは社会的弱者や疎外された集団に属する女の子やユース女性に当てはまり、複数の形態の差別が交差することによって、健康や幸福に対する更なるリスクに直面することが多い。

更なる読み物は以下の通り: 'Plan International: Real Choices, Real Lives – SRHR in Adolescence', 2022.

<sup>17</sup> Education Cannot Wait, 'Global Estimates: Number of Crisis-Affected Children and Adolescents in Need of Education Support', 2022.

<sup>18</sup> UNFPA, 'Adolescent Pregnancy', accessed March 2023.

<sup>19</sup> WHO, 'Adolescent Pregnancy', accessed March 2023.

<sup>20</sup> [Progress on the Sustainable Development Goals: The gender snapshot 2022 | Publications | UN Women – Headquarters](#)

## 優先課題に関する MEESA の背景

### 危機下の女の子の権利 - 教育、保護、食料安全保障

記録的な 5 期連続の干ばつ、継続する続く紛争、マクロ経済的な課題により、東アフリカ地域とイエメン全土で深刻な急性食料不安が続いている。南スーダンでは、4 年連続で広範囲で洪水が発生し、急性食料不安を引き起こしている<sup>21</sup>。アフリカの角東部における人道的緊急事態は、依然として最も懸念されるものであり、危機 (IPC フェーズ 3) と緊急事態 (IPC フェーズ 4) が広範囲に及び、壊滅 (IPC フェーズ 5) にある世帯もある。ソマリア南部<sup>22</sup>の一部とエチオピア南部および南東部<sup>23</sup>では、人道的食料支援がより極度の状態を防いでいるようだ。北部エチオピア地域は、2022 年 11 月の敵対行為停止協定の調印後、よりアクセスしやすくなったが、940 万人が食料不安にある<sup>24</sup>。約 780 万人のソマリア人が過去 40 年で最悪の干ばつの影響を受けており、100 万人超が干ばつによって避難している<sup>25</sup>。ケニアでは、約 440 万人 (ASAL 人口の 27%) が深刻な急性食料不安に直面していると推定されている。南スーダンでは、2023 年には 780 万人以上が最低限必要な食料を確保できなくなる<sup>26</sup>。これは、2022 年に食料不安に直面した 630 万人から大幅に増加している。南スーダンは、内戦時よりも広範な飢餓と飢饉に見舞われる可能性がある。

女性が家族を支えるために生産的な役割を担うようになり、ジェンダーの役割に大きな変化が起きている。家族を養い、基本的な生存ニーズを満たす能力を高めるために、女性に対する経済強化の介入をもっと始めるべきである。

### 性と生殖に関する健康と権利 (SRHR)

食料安全保障などの危機が発生すると、女の子やユース女性の SRHR はしばしば軽視される。GBV、CEFMU、FGM、性的虐待・搾取のリスクが増大し、それに伴い意図しない、望まない妊娠、性感染症にさらされるため、ニーズが高まっているにもかかわらず、SRHR に関する情報、サービス、物資の提供は優先されないことが多いのだ。例えば、食料不安は HIV 感染の増加と関連している。また、食料不安は、診療所への受診率の低下、抗レトロウイルス療法 (ART) を受ける率と継続率の低下、ART の有効性の低下、死亡率の上昇に関連しているため、HIV 感染者のリスクも増大する。

食料が不足すると、家計は避妊具や生理用品など、性と生殖に関する保健サービスや用品の購入を優先できなくなる。このため、女の子と女性は、意図しない、望まない妊娠、生理の健康状態の悪化にますます陥りやすくなる。しかし、女の子と女性の SRHR のニーズが満たされるようにすることで、食料不安に対する回復力を高めることができ、その年の意向や資源に応じて妊娠を計画することができるようになる。同様に、女の子や女性が妊娠のタイミングを計ったり、間隔をあけたりする能力は、労働参加、収入、所得、貯蓄の増加、そしてより広範な経済成長に直結している。

<sup>21</sup> [Horn of Africa Drought: Regional Humanitarian Overview & Call to Action \(Revised 28 November 2022\) - Ethiopia | ReliefWeb](#)

<sup>22</sup> [Somalia expected to avert Famine, but the risk of Famine remains credible | FEWS NET](#)

<sup>23</sup> [Despite ongoing humanitarian assistance, levels of acute malnutrition and mortality remain high | FEWS NET](#)

<sup>24</sup> [www.icpac.net/fsnwg/fsnwg droughtspecialreport29july2022.](#)

<sup>25</sup> FAO and WFP, 'Hunger Hotspots: FAOWFP early warnings on acute food insecurity October 2022 to January 2023 Outlook'. 2022

<sup>26</sup> [www.ipcinfo.org/fileadmin/user\\_upload/ipcinfo/docs/South\\_Sudan\\_IPC\\_Key\\_Messages\\_FebruaryJuly2022\\_Report.pdf](#)

## 優先課題に関する Waca の背景

### 女の子のリーダーシップ、資金調達および人材育成、説明責任

女の子、男の子、ユースの可能性を引き出すということは、家庭、コミュニティ、国での意思決定において、また政治、ビジネス、メディア、市民社会において、そして参加、リーダーシップ、集団行動を通じて、彼らの声が届く場を確保することを意味する。しかし、ほとんどのアフリカ諸国では、自身の生活に影響を与える意思決定への子どもやユースの参加や、コミュニティにおける自己表現、活動、リーダーシップの機会は、極端に制限され、抑制されている。

### 危機下の女の子の権利 - 教育、保護、食料安全保障

西・中央アフリカ地域は、悪化の一途をたどり、前例のないレベルの武力暴力と不安の震源地となっている。暴力と紛争が人道危機の主な要因である。気候ショックは、予見可能な将来にわたって深刻な飢餓を引き起こし続け、避難を促し、数百万人を飢餓の瀬戸際に追いやっている。西・中央アフリカの飢餓人口は 3,500 万人であり、これらの危機に対処するための緊急かつ長期的な解決策が早急に提供されなければ、2023 年には史上最高の **4800 万人(900 万人の子どもを含む)**に達すると予測されている<sup>27</sup>。武力紛争は、人口の大規模な移動、学校の閉鎖、学校施設の破壊、生徒や教師の誘拐や殺害を起し続けている。西・中央アフリカ地域では、暴力のために **1 万 3731 校**超の学校が閉鎖または非稼働となっており、多くの子どもの長期的な将来が危険にさらされている<sup>28</sup>。一方、何十万人もの子ども、特に女の子が飢餓危機のために学校から連れ出されたり、空腹のまま登校したりしており、学習能力や集中力に影響を及ぼしている。

### 性と生殖に関する健康と権利 (SRHR)

**FGM**: FGM を受けた人のうち、14 歳以下の女の子は 4,400 万人に上る。西アフリカと中央アフリカでは、この年代の FGM 実施率が最も高いのはマリ 73%、ガンビア 56%、モーリタニア 54%である。15~49 歳の女の子と女性の実施率が最も高い国は、ソマリア 98%、ギニア 95%、ジブチ 93%、マリ 89%、シエラレオネ 83%、ブルキナファソ 76%である<sup>29</sup>。

多くのコミュニティでは、男性によって文化的信条や社会規範が定められている。FGM を実践しているコミュニティでは、FGM は強い社会規範であり、社会における女性の地位を高め、男性に好まれるようにするために必要な宗教的・文化的慣習と考えられている。多くの場合、こうした信念を支持し、FGM を終わらせる上で極めて重要な役割を果たす宗教的・文化的機関もまた、男性によって支配されている。したがって、男性には、重要な役割だけでなく FGM の廃止を含め、社会の変革に参加する責任もある。従ってコミュニティは、「有害な男らしさ」を生み出さないよう、このような有害な社会規範の転換に努めるべきである。

西・中央アフリカのプランは、男性や男の子とのパートナーシップを通じて、開発、人道支援、危機後のプログラム対応において、FGM への対処を目的とした介入を適応させてきた。そのひとつが「**FGM から女の子を救う**」プロジェクトである。このプロジェクトは、FGM や女性と女の子に対する暴力との闘いに男性や男の子が直接関わることを奨励している。これには、世代間の対話、代替的な入門儀式の祝典、切除の儀式を担当する女性のための代替的な収入創出活動の促進、FGM の影響に関する一般向け啓発セッションなどが含まれる。プロジェクトが対象とする 80 の地区で、約 10,368 人の男性がプロジェクトの活動に参加している。プロジェクトはまた、FGM 撤廃の支持者として何人かの村長を特定した。ギニアのある村長は、以下のように話している。「私たちがこの慣習を撤廃することを決めたのは、女性や男性が参加した公開会議のときでした。私たちは単純な宣言にとどまらず、村の権威に

<sup>27</sup> FAO, UNICEF and FAO, December 8<sup>th</sup>, 2022

<sup>28</sup> UNOCHA, March 2023: UNPRECEDENTED SCHOOL CLOSURES JEOPARDISE THE FUTURE OF MILLIONS IN WEST AND CENTRAL AFRICA

<sup>29</sup> [International Day of Zero Tolerance for Female Genital Mutilation, 6 February | Africa Renewal \(un.org\)](https://www.un.org/en/observances/zero-tolerance-for-female-genital-mutilation/)

逆らおうとする違反者には制裁を導入しました」。マリの同様のプロジェクトでは、少なくとも 60 の村が FGM の慣習を放棄した。

**CEFMU:** CEFMU は、子どもの権利の侵害であり、人間形成の根本的な妨げとなる有害な慣行である。プランは、子ども、思春期の若者、ユース、特に女の子とユース女性の性と SRHR の実現を妨げるジェンダー不平等と社会規範に挑戦することが極めて重要であると考えます。これらの規範を正当化するために、伝統的、文化的、宗教的な根拠を用いるべきではない。人権基準と国際協定に従って性と生殖に関する権利を擁護することは、プランの優先事項である。

**思春期の妊娠:** 西・中央アフリカにおいて、CEFMU をやめさせるプログラムの効果を見極めようとするとき、私たちは 10 代の妊娠が CEFMU と表裏一体であることに気づく。思春期の若者の出産の 90% は、すでに結婚しているか、婚姻関係にある女の子である<sup>30</sup>。西アフリカや中央アフリカの多くの状況において、CEFMU は思春期の妊娠を促進する要因として働いている。なぜなら、子どもの花嫁はしばしば、生殖能力を証明しなければならないという強い社会的圧力を受けており、それに抵抗する手段や手段がないからである。特に女の子の婚外性行為がタブー視されている状況では、思春期の妊娠が CEFMU のきっかけとなる。意図せず、望まない思春期の妊娠は防ぐことができ、防ぐべきである。そのためには、ジェンダー差別的な規範に挑戦し、女の子に対する性暴力をなくすこと、女の子の主体性を強化し、生殖に関する健康について自律的かつ十分な情報を得た上で決定する能力を高めること、包括的性教育の提供を確保すること、保健制度とサービスが思春期の若者特有のニーズを満たすようにすることが必要である。

## MEESA と WACA の事例研究

### 学校給食プログラム

学校給食プログラムでは、子どもに朝食と昼食、またはその両方を、学校にいる間、あるいは持ち帰りの配給として提供する。学校で食べる食事は、学校、コミュニティで調理されるか、中央調理場から配達される。食材はできるだけ地元で調達される。

学校給食は、子どもの栄養と学習を支援する強力な介入策であると同時に、食料不安に苛まれる世帯に重要なセーフティネットを提供できる。学校給食は、親や養育者に子どもを学校に通わせる強い動機付けとなり、教育の成果における男女格差を是正することができる。学校給食プログラムは、子ども、特に女の子を学校に引き込み、学校に留まらせる。長期的な持続可能性が不可欠である。

2021 年に発足した学校給食連合は、政府主導の動きであり、国家システムの一部として、国の持続可能な学校給食プログラムを改善または回復するために、政府とそのパートナーを支援する行動を推進する。その目的は、2030 年までにすべての子どもが学校で健康的で栄養価の高い食事をする機会を得ることである。この動きの対象国のうち、プランはケニア、エチオピア、南スーダンで学校給食プログラムを実施している。例えばプラン・インターナショナル・ケニアでは、2022 年に 4 つの郡で 2 万 2500 人超の子どもたちに昼間の温かい食事を提供した。飢餓危機が悪化の一途をたどるなか、このプログラムは、より広い地域でより多くの子どもたちに行き渡るよう、規模を拡大している。

### 南スーダンにおける食料・栄養プログラムへの保護の統合

南スーダンは壊滅的なレベルの食料不安に見舞われている。また、世界で最も深刻な保護危機のひとつでもある。2022 年には、推定 520 万人の女の子、女性、男の子、男性が保護リスクや侵害に直面すると予想されていた。プラン・インターナショナル・南スーダンは、最も影響を受けている地域のひとつであるピボールで活動しており、そこ

<sup>30</sup> Plan International PAN African Advocacy Strategy 2019-2022

では食料不安の悪化により、子どもや思春期の若者、特に思春期の女の子たちにとって、子どもの保護や性暴力・GBV のリスクが急速に高まっている。

プラン・インターナショナル南スーダンは、ピボールにおける食料不安と保護の両方の課題に対応している。これらの課題の相互依存的な性質を認識し、食料支援と栄養プログラミングに保護のニーズを統合するための様々な取り組みが実施されている。

プロジェクト管理委員会は、食料支援プログラムの管理を監督するために、すべての食料配給地点に設置されている。プロジェクト管理委員会は、食料配給がしばしば子どもや女性の保護リスクを伴うことを認識し、プランのジェンダーおよび保護スタッフと協力して、配給場所や栄養センター、また帰宅途中に子どもや女性に影響を与える主な保護上の懸念を特定する。特定された保護リスクには、子どもが人ごみの中で迷子になったり、食料を運ばされたりすることや、配給中に男性が女性に嫌がらせをすることなどが含まれた。

ヘルプデスクは、プログラム参加者が保護問題を特定できるよう、食料配給所と栄養センターに設置されている。ヘルプデスクで提起される問題には、子どもの搾取に関する懸念、GBV の事例、リスクのある子どもの特定などがある。ヘルプデスクのスタッフは、子どもの保護とGBV の事例に関するピボールの紹介システムについて訓練を受けており、地元の NGO は、GBV の事例や、武装勢力や武装グループに関連する子どもの特定と紹介を支援している。同伴者のいない子どもや親と離れている子どもは、食料支援のための登録の支援を受けている。こうした取り組みから得た主な教訓は、コミュニティからの フィードバックや苦情のためのさまざまなメカニズムを持つことの重要性である。

プラン・インターナショナル南スーダンは、食料支援プログラムに保護のニーズを組み込むために、他にも多くの措置を講じている。食料保障と生活支援プログラムの参加者を選ぶ際には、最も弱い立場にある保護事例を優先すること、昼間の時間帯に食料配給を計画・実施すること、食料配給地点と栄養センターがアクセスしやすく、安全で安心な場所であることを確認するために、コミュニティの人と協議して食料配給地点と栄養補給地を選定すること、プロジェクト管理委員会をコミュニティベースの子ども保護ネットワークと連携させること、虐待、搾取、暴力から子どもを守るための仕組みとして、栄養センターで「子どもに優しい場所」を運営することなどである。

## WACA ユースチャレンジ基金

WACA ユースチャレンジ基金 (YCF) は、ユース、特に女の子が大胆に立ち上がり、情熱と勢いをもって自身の考えを発言し、変革のための緊急の行動と決断を要求し、すべての人のために公正で平等な世界を創るという野心を追求することを支援する私たちの約束である。

YCF は、女の子やユースと共同で創設された初のユースのための柔軟な基金である。YCF は、女の子の権利とジェンダー平等の促進を目的とし、女の子・ユース主導の革新を奨励するために、地域全体の様々な女の子・ユースの運動が自由に使える競争的資金提供の機会である。資金提供は YCF の第一の要素であるが、第二の、そして非常に重要な要素は、ユースのネットワークの構築である。YCF の最初の立ち上げ時には、1400 を超える応募があった。これは 1,400 のユース団体が、女の子の平等のための取り組みを発表するために集まったということだ。

プランが資金提供できる団体の数は限られているものの、この取り組みを通じてネットワーク形成を可能にしている。また、集まった団体はプランのプラットフォームから学び、共有することができ、更にジェンダー平等推進のための女の子のリーダーシップとネットワーク強化の道を開き、他の資金を集めることもできる。